

埼玉シニア 皇居・乾通り桜見学と修復された歴史的建造物・東京駅を見学

林 久詔通信員

皇居乾通り公開期間の3月30日（金）に皇居・乾通り桜見学と修復された歴史的建造物・東京駅を見学するコースで行われた。

当日は東京駅丸の内中央口に10時に集合し、JAMシニアクラブ大野さんの案内でスタートした。

東京駅は明治41年（1908年）3月に着工し、大正3年（1914年）12月に開業。開業当時は3階建ての近代化の建造物でしたが、空襲により3階部分が崩壊したため、戦後は2階までの姿を私たちは見てきた

平成24年（2012年）国指定重要文化財である丸の内駅舎は創建当時の姿に復元されて美しい姿となった。南北のドームは高さ35メートルあり、欧州の宮殿を思わせる雄大な姿。

八角形のドーム内部の天井には、両翼を広げ約21メートルとなる8羽の鷲が取り付けられ、8か所のコーナーには8つの干支の彫刻が配置されている。駅舎は埼玉県深谷市産の赤レンガが使用されている。一見する価値がある。東京駅前の元東京中央郵便局、丸ビルの松抗も歴史を感じる。

皇居へは坂下門から入り、予想外に空いていてスムーズに入門でき、乾通りもゆったりと歩くことができた。いつもは裏側しか見られない富士見櫓をバックに全員で写真を撮ることもできた。桜、皇居を見ながら約30分間歩き、西詰橋に右折して、二の丸公園に出て、江戸城天守台、本丸跡、二の丸庭園を大野さんから歴史の説明を受けながら見学。最後は江戸城の裏門と言われた平川門から外へ、この門だけが当時のまま残っている。

皇居を後に竹橋駅に抜けるパレスサイドビル内の、かつお料理専門店・明神丸で昼食をとり、本場のかつおをその場であぶり、生がよいおいしい食事でした。乾通りの桜は写真報道ほど多くなく、桜見物としてはいまひとつの感じでしたが、普段入れない皇居内であり皆さん、一度は来てみたかったと好評でした。参加された方会員16名、家族6名の方々でした。



会員交流会に家族を含む22名参加